

会議名	令和7年度 つばさ南小・つばさ北小の統合による小中一貫教育校に関する説明会
開催日時	令和4年6月22日（水）午後7時から8時45分まで
場 所	川島町立川島中学校体育館
参加者	12人（傍聴者を含む）
議 題	（1）令和7年度 つばさ南小・つばさ北小の統合による小中一貫教育校に関する説明 （2）説明に対する質疑
出席者	教育長 中村正宏 教育総務課長 鈴木克久 川島中学校長 市川俊実 学校統合・学校教育指導幹 関口敬氏 学校統合推進室長 坪内嘉夫 事務局職員 指田直輝、木村建太
配布資料	資料 令和7年度つばさ南小・つばさ北小の統合による小中一貫教育校
<p>説明会の内容・概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 3 出席者紹介 4 説明 5 説明に対する質疑 6 閉会 <p>《教育長あいさつ》省略</p> <p>《資料により説明》省略</p>	

《質疑・応答》

質問 小中一貫教育校では、小学校5・6年生の児童は50分授業とのことですが、小学生には長くないか。

また、5年生から希望者は部活動に参加できるとのことだが、下校時間が遅くなった場合、少人数でもスクールバスの運行を考えているのか。

回答 全ての授業を50分授業にするのではなく、例えば1・3・5時間目を50分授業にするなど、子どもの実態に合わせ、負担が掛からないような形で検討していきます。なお、視察した春日部市の江戸川小中学校では、午前を45分授業、午後を50分授業としていました。

部活動につきましては、参加した場合、下校時間が遅くなるため、スクールバスを増便できるか検討します。

質問 伊草小学校の卒業生は、進学時に川島中学校と西中学校に分かれるが、川島中学校区（つばさ南小・つばさ北小、川島中）との関係性はどのようになるのか。

回答 西中学校開校時、伊草小学校の卒業生は、川島中学校と西中学校に半数ずつに分かれて進学する形になりましたが、現状は、両中学校とも生徒数のバランスは良い状態にあると考えています。このため分散進学する今の形を変更する考えはありません。

また、伊草地区の一部の生徒は中学校1年生の段階から、川島中学校に設置される小中一貫教育校へ後から仲間入りすることになるので、本人だけでなく保護者の方々も心配される気持ちは十分理解しています。そのため、伊草小学校の子供たちには、中学校へ進学する前から、つばさ南小学校、つばさ北小学校、川島中学校との交流を多く取り入れていきたいと考えています。例えば、中学校体験、希望制による部活動への参加、川島中学校の先生と西中学校の先生の伊草小学校への乗り入れ授業、さらに学習用端末を活用したオンラインでの交流授業も取り入れ、全体の課題として取り組んでいきます。

質問 川島中学校が小中一貫教育校となった場合の通学方法はどのようになるのか。

回答 現在のスクールバスは、統合によって、小学校が無くなった出丸及び小見野地区の児童の通学支援として運行しており、学校を中心に半径2kmの円を超える地域に住む児童を利用対象者としています。川島中学校が統合小学校の設置場所になると、三保谷、出丸、八ツ保、小見野の4地区全てが、基本的には通学支援対象となります。

そのため、川島中学校を中心に半径2kmの円を超える地域に住む児童が利用対象者になるというのが、今時点での教育委員会の考え方です。実際のスクールバ

スの運行体制については、来年度に、つばさ南小学校とつばさ北小学校を統合するための小学校統合協議会を組織する予定なので、学校の教職員、PTA代表者を交えて検討していくこととなります。

質問 通学方法に関しては、通学距離が短い場合は、小学生は徒歩、距離にかかわらず中学生は自転車という考えに変わりはないのか。小学生が1人で下校することは危険ではないか。

回答 現時点では中学生は全員自転車通学、距離が短い小学生は基本的には徒歩という考え方でおります。小学生が1人で下校することの危険性は認識しています。そのため、集団下校や地域の方の力をお借りしたり、パトロールしたりするなど危険のないよう配慮していきます。

質問 川島中学校に小中一貫教育校が設置された場合、現在の放課後児童クラブ（学童保育）はどのようなになるのか。

回答 小中一貫教育校の開校に向けて、小学校低学年棟を増築する計画ですが、放課後児童クラブ（学童保育）のために教室を増やして校舎を建設することは難しいと考えていますが、将来的には、子どもの数が減少することによって余剰教室を学童保育室として活用することもできます。それまでの間は、下校時にスクールバスで児童を途中下車させ、現在の放課後児童クラブ（学童保育）を利用させていただくことも考えられますので、どのような方法とするかは検討していきます。

質問 プールについては、中学生用のプールに小学生が入ることになるのか。

回答 中学生用のプールを小学生の体格に対応させる方法としては、プール床を一部改修して底上げするか、台を入れて水深を浅くする方法がありますが、プール内に一部段差が生じてしまうため、危険性もあります。

今年度からの試みとして、民間のスイミングスクールに指導を委託し、つばさ北小学校の児童が、つばさ南小学校プールで合同の水泳の授業を行っていますので、例えば中山小学校や伊草小学校へ行って、水泳の授業を受けるということも考えられ、他校間との児童同士の交流も生まれると思います。

また、春日部市の江戸川小中学校では、市内の民間が運営するスイミングスクールへ行き年間を通じて水泳の授業を行っているとのことであり、当町でも、民間のスイミングスクールに行き、水泳の授業を行う方向も検討してみたいと思います。

質問 小中一貫教育では、今の小学校5学年から6学年、中学校1学年という呼び方

は、中期課程5学年～6学年、後期課程1学年という呼び方に変わるのでしょうか。また、勉強内容、カリキュラムは変わるのか。

回答 小中一貫教育の場合、基本的には、小学校低学年を前期課程、小5から中1を中期課程という呼び方に変わるものですが、今の小学校、中学校という呼び方を続けるかについて、今後検討していきます。

また、小学生、中学生のカリキュラム自体は、これまで通り変わりません。

質問 小学校1年生から4年生と5・6年生が別々の校舎に分かれてしまうと、小学生同士の交流はできるのか。また、全校遠足などの行事はどうなるのか。

回答 小学生は、中学校校舎と増築校舎に分かれますが、問題なく小学生同士で授業交流するものです。遠足など小学校課程での行事は、これまでどおり実施します。

質問 小学校5・6年生と中学生が同じ校舎に入る場合、中学生のテスト期間中の環境についてどのように配慮するのか。

回答 ノーチャイムを実施し、授業に支障が出ないように工夫を図るほか、中学生のテスト期間中には、小学生に対し、教室の移動時は静かにするよう指導します。また、合唱などについても、普通教室でなく、音楽室のほか別室で実施するなどし、児童・生徒の学習に支障が生じないようにします。

質問 特別支援学級は、小学校と中学校を一緒にするのか。

回答 特別支援学級は、小学校と中学校、それぞれ別々の部屋を用意します。小学校は増築校舎に、中学校は現在ある校舎の教室を予定しています。ただし、一緒にしたほうが効果的なものについては合同での授業の実施を検討します。

質問 小中一貫教育の場合、期末テストなど定期考査はこれまで通り行うのか。また、通知表における評価方法はどうか。

回答 現在と変わりません。

質問 中1ギャップがあるから小中一貫教育を進めるという説明はマイナス的な捉え方だと思います。中学校の校舎に入るのを楽しみにしている小学生もいるので、プラスな考えをしていただきたいと思います。

回答 中1ギャップは現実的に、子供たちの中にあるものですが、それ以上に、教育

委員会では、小学校の先生と中学校の先生の間ギャップがあると捉えています。小中一貫教育によって、先生たちの指導の仕方が変わることで、子どもの学びも変えることができると考えています。

質問 中山小学校と伊草小学校で卒業式を行い、川島中学校に設置予定の小中一貫教育校では、卒業式はどのようなになるのか。

回答 卒業式は9年間の最後に実施するものとし、前期6年間で終了した時は、終了式として実施するという考えです。川島中学校区での施設一体型小中一貫教育校と西中学校区での施設分離型小中一貫教育校とで違いは出ますが、多様性を良さとして捉えたいと思います。

質問 運動会や学校独自に実施している現在のフェスティバル、川中祭などの行事はどうなるのか。

回答 小学校行事、中学校行事それぞれありますが、6月からスタートした小中一貫教育推進協議会の中に、各校から選出された教員で組織する専門部会を設けております。この専門部会において、小・中学校で一緒に行った方がよい行事、別々に行った方がよい行事を検討していきます。

質問 緊急時の連絡方法はどのようなになるのか。また、町の防災無線を使用することは可能なのか。

回答 現在、緊急時の連絡は、保護者用の緊急メールを使用しています。また、スマホや携帯がないご家庭につきましては、電話連絡をする等の対応をしていきます。

質問 部活動が少なくなっているが、川島中学校と西中学校で合同実施するなど、部活動の統合も検討していただきたいと思います。

回答 現在、中学生の人数が減少しており、部活動を維持できない状況にあります。そのため、部活動の運営を、学校から地域へ移行することについて検討しています。また、川島中学校と西中学校との部活動の合同実施については、大会出場などに関して様々な条件があるため併せて検討していきます。

質問 圏央道の北側において、降雪時に歩道や道路が凍結することがありますが、そのような場合、スクールバスを利用することはできるのか。

回答 圏央道の北側については、日陰となってしまうため、積雪が凍結し、長期間溶

けない時があります。その際のスクールバス利用については、今後検討していきます。また、除雪の対応などについては、まち整備課と連携して取り組んでいきます。

質問 同学年同学級において学力に個人差があると思うが、個々に応じた、基礎の底上げや学力向上について検討していただきたいと思います。

回答 学力差については、英語と数学で特に出やすい傾向にありますが、現在、タブレットを活用した学習の振り返りやALT、外国語支援員による支援をしています。また、小中一貫教育校になることで、小学校の授業に専門性のある中学校の先生が支援に入るなどし、さらなる学力向上を図りたいと思います。

質問 通学路の中で、交通量が多く危険な箇所があります。道路環境の整備についてどのように考えているのか。

回答 川島中学校が小中一貫教育校になった場合、児童生徒の通学路がどのようになるのか現在確認しています。危険な箇所については、グリーンベルトや信号機、横断歩道の設置などについて、町・警察とも協議していきます。また、今後、通学路検討委員会を立ち上げ、通学路について具体的、詳細な検討をしていきます。

《課長あいさつ》省略

作成者	教育総務課 学校教育グループ 木村 建太
-----	----------------------